

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期 月3.4	教室名	301教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけでは無く、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>復習をしっかりとしておく。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	総論を理解出来るようになる	上記教科書		
	講義形式	各コマにおける授業予定	骨の役割と骨の連結			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
	講義形式	各コマにおける授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
	講義形式	各コマにおける授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
	講義形式	各コマにおける授業予定	上肢帯の名称と関節名称			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
	講義形式	各コマにおける授業予定	上肢帯の名称と関節名称			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになるようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢骨まとめ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋学総論を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	起始・停止の概念、筋の補助装置を理解する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅胸筋・横隔膜・腹部の筋を覚える		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅胸筋・横隔膜・腹部の筋を覚える		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅背筋・固有背筋を覚える		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅背筋・固有背筋を覚える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学・総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	通年 金・1限	教室名	301教室
担当教員	池上 直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改正版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学 AI生成によるイメージ図						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ 座学以外にも体験、イメージできるように自ら動ける、動かす体験をさせる。						
《履修に当たつての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外の準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の歴史について理解する	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師術、柔道整復師の沿革1			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の業の成り立ちについて理解を深める	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
		各コマにおける授業予定	柔道整復術、柔道整復師の沿革2			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体にどのような外力が加わり組織が損傷するのか理解する	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
		各コマにおける授業予定	人体に加わる力、損傷時に加わる力の理解			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの評価について学ぶ	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
		各コマにおける授業予定	痛みの基礎について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折にはどのような分類があるか。骨折の種類について。	柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
		各コマにおける授業予定	骨の概説、骨折の分類、種類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折線の入り方、骨折の部位にどのような特徴があるかを学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	骨折の分類(骨折線の方向による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、力の働き方による分類、骨折部の部位による分類)			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の一般症状と固有症状について理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナー
	各コマにおける授業予定	骨折の各症状の理解。			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
	各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(併発症、続発症)			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(後遺症)			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の骨折と成人骨折の特徴の理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	小児骨折			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の骨折についての理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	高齢者の骨折、骨折の癒合日数。			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折はどのようにして治癒していくのか、治癒過程の現象を組織学的に理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	骨折の治癒過程、骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子。			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節についてその構成組織について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	関節の構造と機能、関節を構成する組織。			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節損傷とはどのようなものか、どのような組織を損傷するのか。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	関節損傷の概説、関節損傷の分類、損傷される組織、関節構成組織損傷。			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	靭帯の治癒機序についてその過程や予後について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
	各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(損傷の程度による分類、靭帯損傷の治癒過程、経過と予後)			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学・総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	通年 金・1限	教室名	301教室
担当教員	池上 直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学 AI生成によるイメージ図						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ 座学以外にも体験、イメージできるように自ら動ける、動かす体験をさせる。						
《履修に当たつての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節軟骨の治癒機序について、なぜ修復が困難なのかを理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(発生頻度、分類、症状、合併症、軟骨の治癒機序、関節部に分布あるいは通過する神経・血管)			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼とはどのようなものかその発生頻度や分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の定義と概説、発生頻度、分類			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の分類(脱臼の頻度と機序による分類)			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の症状について理解を深める。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の症状、脱臼の合併症、脱臼の修復障害			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の予後について学ぶ。筋の構造について細胞レベルから理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の経過と予後、筋の損傷(筋の構造と機能)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋にまつわる補助装置や筋繊維の種類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋繊維の種類、筋の脈管神経、筋の補助装置、筋の損傷を起こす力		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の程度や損傷の種類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋の性状による分類、筋損傷の程度による分類、筋間損傷と筋内損傷		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の症状について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋の外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類、筋損傷の症状		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱の構造と機能について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋損傷の治癒機序、筋損傷の予後、腱の構造と機能		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱の損傷について外力や分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	腱の性質上の分類、腱損傷の程度による分類、腱損傷の程度による分類、腱損傷の部位による分類、外力の働いた部位による分類		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱損傷の治癒機序について学ぶ。末梢神経の構造とについて細胞レベルから学ぶ。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	腱損傷の症状、腱損傷の治癒機序、末梢神経の構造と機能		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経損傷の外力、原因、程度について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷を起こす力、神経障害の原因による分類、末梢神経の程度による分類。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経、中枢神経の症状なども比較しながら学ぶ。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷の外力の働き方による分類、末梢神経の症状。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経治癒機序についてワラー変性などを交えながら理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経の治癒機序、総復習		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	今で学んだことの中で重要なもののアウトプット。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	総復習。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔整基礎実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	実技室2
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、専科教員資格、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員 医療法人淳良会 関目病院、橋本スポーツ鍼灸整骨院			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復各論Ⅲで学んだ頭部・体幹の損傷に対する評価法・整復法・固定法についての実技を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
試験点数100%にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生同士での練習が不可欠である。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 授業を通じての到達目標	頸部の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
	各コマにおける授業予定	頸部の機能解剖①				
第2回	講義 授業を通じての到達目標	頸腰部の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
	各コマにおける授業予定	頸部の機能解剖②				
第3回	講義 授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
	各コマにおける授業予定	頸部の損傷①				
第4回	講義 授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
	各コマにおける授業予定	頸部の損傷②				
第5回	講義 授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
	各コマにおける授業予定	頸部の損傷③				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷④		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷⑤		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の機能解剖①		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の機能解剖②		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷①		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷②		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷③		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷④		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	胸腰部の損傷⑤		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	後期学習内容の復習を行い理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	柔道基礎実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	後期 木1.2限	教室名	実習室2
担 当 教 員	岡本一馬	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員 かとう整形外科 みどりまち接骨院			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	柔道基礎実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	後期 木1.2限	教室名	実習室2
担当教員	岡本一馬	実務経験とその関連資格	柔道整復師 専科教員 かとう整形外科 みどりまち接骨院			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第17回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第18回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第19回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	膝外傷・障害について(検査、固定、治療)			
第20回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	膝外傷・障害について(検査、固定、治療)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足部に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	足外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第22回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足部に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	足外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第23回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肩外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第24回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肩外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第25回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肘に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肘外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第26回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肘に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肘外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第27回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	手に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	手外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第28回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	手に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	手外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第29回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	後期授業で行ったことが理解できているかを確認すること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	後期授業総復習		
第30回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	後期授業で行ったことが理解できているかを確認すること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	後期授業総復習		